

令和4年度卒業生への卒業時アンケートの概要報告

【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和4年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

【方法】

1. 調査対象
 - ・令和4年度に卒業する卒業生。
2. 調査方法
 - ・4年生全員にiPadを貸与していることから、返却時にGoogle formによる卒業時アンケートを実施した。

【結果】

問1. 所属学科・コース

| 学部・学科・コース | 回答者数 | 対象者数 | 回答率 |
|-----------|------|------|-----|
| 体育学部(全体) | 543 | 615 | 88% |

問2. 仙台大学の4年間で一番何に力を注ぎましたか？

| 項目 | 1. 勉学 | 2. 資格取得 | 3. 部活動 | 4. 友人づくり | 5. その他学内での活動 | 6. 学外での活動 | 合計 |
|-----|-------|---------|--------|----------|--------------|-----------|--------|
| 回答数 | 100 | 74 | 266 | 21 | 14 | 68 | 543 |
| 割合 | 18.4% | 13.6% | 49.0% | 3.9% | 2.6% | 12.5% | 100.0% |

分析結果：昨年度と比較すると、増加したのは「部活動」(+5.9%)、「学外での活動」(+2.0%)のみであり、その他はすべて前年度を下回っている。R4年度卒の学年は、1年次のみ通常の大学生生活を送り、その後はコロナ禍の影響を強く受けていたため、勉学に対するモチベーションが下がり、友人関係にもさほど積極的になれなかったと考えられる。一方、部活動や学外での活動(おそらくインターシップなど)は就職活動でもアピールできる点として重視したのではないだろうか。

問3. 仙台大学の教育(教育課程)で成長できた実感はありますか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 290 | 221 | 26 | 6 | 543 |
| 割合 | 53.4% | 40.7% | 4.8% | 1.1% | 100.0% |

分析結果：「そう思う」及び「ややそう思う」を合計すると94.1%となり、多くの卒業生が成長を実感したことが理解できる。この傾向や昨年度と比較しても「そう思う」が特に増加しており(+7.9%)、制限が多かった大学生活の中でも得られるものが多かったと言える。この点においては、学生も教員もオンライン等の制限がある授業形態や大学生活に適応し、最大限の成果を得られる環境を整備することができたからではないかと考えられる。

問4. 仙台大学の施設・設備に満足していますか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 216 | 232 | 69 | 26 | 543 |
| 割合 | 39.8% | 42.7% | 12.7% | 4.8% | 100.0% |

分析結果：「そう思う」及び「ややそう思う」を合計すると82.5%となり、多くの卒業生が施設・設備に満足していたことが分かった。この数値は前年度の74.6%と比較すると7.9%増加しており、コロナ禍で徐々にキャンパスを利用できる状況が整っていったことが影響していると考えられる。一方、施設・設備に満足していない割合は17.5%となっており、特に「全くそう思わない」が昨年度より1.2%増加している点については、別途要因を探る必要がある。

問5-1. 仙台大学での4年間の「あなたの目標」は何でしたか？

| 項目 | 1. 学業 | 2. 資格取得 | 3. 部活動 | 4. 友人作り | 5. 留学 | 6. ボランティア | 7. 学外での活動(アルバイト等) | 8. 目標ができなかった | 9. その他 | 合計 |
|-----|-------|---------|--------|---------|-------|-----------|-------------------|--------------|--------|--------|
| 回答数 | 102 | 158 | 201 | 14 | 5 | 3 | 18 | 13 | 29 | 543 |
| 割合 | 18.8% | 29.1% | 37.0% | 2.6% | 0.9% | 0.6% | 3.3% | 2.4% | 5.3% | 100.0% |

分析結果：「部活動」(37.0%)が最も多く、次いで「資格取得」(29.1%)、「学業」(18.8%)であり、全体の85%程度を占めた。「部活動」が最も多い結果から、体育学部の特徴の表れであると考えられるが、今後はさらに「部活動」と「学業」、「資格取得」が両立できるような支援が必要であると考えられる。

問5-2. 仙台大学での4年間であなたの目標は達成できましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 245 | 219 | 53 | 26 | 543 |
| 割合 | 45.1% | 40.3% | 9.8% | 4.8% | 100.0% |

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」の肯定的な回答が全体の85.4%(昨年度84.1%)を占め、昨年度と同様な結果であったが、「そう思う」は昨年度比10.3%増加した。14.6%の学生が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答していることから、学生への支援の改善と継続が必要であると考えられる。

問6. 仙台大学に入学して良かったと思いますか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 280 | 227 | 28 | 8 | 543 |
| 割合 | 51.6% | 41.8% | 5.2% | 1.5% | 100.0% |

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」が昨年度比3.8%増加し、全体の93.4%(昨年度89.6%)を占めた。「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」と回答した学生もいることから、学生へのきめ細やかな支援が必要であると考えられる。

問7. 専攻分野に関する専門的・応用的な知識や技術を身につけることはできましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 269 | 238 | 33 | 3 | 543 |
| 割合 | 49.5% | 43.8% | 6.1% | 0.6% | 100.0% |

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」が昨年度比2.2%増加し、全体の93.3%(昨年度91.1%)を占めた。Classroomを活用したオンライン授業を工夫したことで、学生たちの専門的・応用的な知識や技術を身につけることができたと考えられる。

問8. 大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することはできましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 274 | 240 | 26 | 3 | 543 |
| 割合 | 50.5% | 44.2% | 4.8% | 0.6% | 100.0% |

分析結果：1と2の肯定的な回答割合が令和2年度は84.2%、令和3年度は93.3%、令和4年度は94.7%と上昇しており、大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することができたと思われる。

問9. 専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はつきましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 246 | 258 | 36 | 3 | 543 |
| 割合 | 45.3% | 47.5% | 6.6% | 0.6% | 100.0% |

分析結果：1と2の肯定的な回答割合が令和2年度は80.0%、令和3年度は91.9%、令和4年度は92.8%と上昇しており、専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はついたと思われる。

問10. 多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 335 | 181 | 22 | 5 | 543 |
| 割合 | 61.7% | 33.3% | 4.1% | 0.9% | 100.0% |

分析結果：1と2の肯定的な回答割合が令和2年度は87.0%、令和3年度は91.8%、令和4年度は95.0%と上昇しており、令和4年度はまだコロナ禍が残る状況ではあったものの、多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたと思われる。

問11. 指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションできる力はつきましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 296 | 225 | 19 | 3 | 543 |
| 割合 | 54.5% | 41.4% | 3.5% | 0.6% | 100.0% |

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の合計値は、令和3年度は92.9%で令和4年度は95.9%とわずかながら改善しており、多数の学生が肯定的な回答をしている。その要因としては、コロナ禍以降の規制が始まったときと比較して、対面でコミュニケーションが取れる環境が増えたことやICTを活用した授業の質の向上が肯定的な回答に繋がったのではないかと考えられる。

問12. 多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組む力はつきましたか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 279 | 231 | 31 | 2 | 543 |
| 割合 | 51.4% | 42.5% | 5.7% | 0.4% | 100.0% |

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の合計値は、令和3年度は92.9%から令和4年度は93.9%と大きな変化はなく、多数の学生が肯定的な回答をしている。大学も、対面でコミュニケーションが取れる環境が増えたことやICTを活用した授業の質の向上が肯定的な回答に繋がったのではないかと考えられる。

問13. 大学からiPadの貸与を受けて良かったと思いますか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 393 | 119 | 26 | 5 | 543 |
| 割合 | 72.4% | 21.9% | 4.8% | 0.9% | 100.0% |

分析結果：「1. そう思う」が令和3年度の58.2%から72.4%と14.2ポイントと大幅に改善し、「2. ややそう思う」を含めると令和3年度の85.4%から94.3%と8.9ポイントの改善がみられ、iPadの貸与に関してメリットを感じた学生が多い結果となった。このような結果となった要因としては、令和3年度と比較して学生がiPadを所持する期間が長く、時間に比例してiPadの活用方法をより有効に活用できるようになったことが要因の一つとして考えられる。

問14. 本学のオンライン授業の内容はわかりやすかったですか？

| 項目 | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない | 合計 |
|-----|---------|-----------|--------------|-------------|--------|
| 回答数 | 205 | 253 | 77 | 8 | 543 |
| 割合 | 37.8% | 46.6% | 14.2% | 1.5% | 100.0% |

分析結果：「1. そう思う」と「2. ややそう思う」の合計値が令和3年度の79.1%から、令和4年度は84.4%とわずかながら改善がみられ、多くの学生が肯定的に受け止めていることがわかる。昨年度に引き続き、オンライン授業に対して各教員が工夫、改善を行った結果と考えられる。一方で、「3. あまりそう思わない」が14.2%と、一定数の学生が不満に思っており、より改善が必要な部分もあると考えられる。

本調査の分析について

本学における教育内容および学修成果に関する項目（問3、7、8、9、11、12、14）において、前年度と比較して肯定的な意見が増加する傾向が見られた。これは、コロナ禍における授業形態が対面授業とオンライン授業を併用した授業であったことから、これらの取り組みに対して評価を得ることができたものと考えられる。また、施設や設備に関する項目（問4、13）でも肯定的な意見が多くみられ、学習環境整備の方向性が学生にとってより効果的なものとして捉えられた結果といえる。大学生生活全体を通しての評価に関する項目（問5、6、10）においても、前年度と比較し肯定的な意見の増加がみられた。これは、教育効果の向上や、課外活動の充実、そして就職へのサポート活動など、本学の学生に対する取り組みが評価されたものと考えられる。